

平成 29 年度全国有床診療所連絡協議会 中国四国ブロック会第 9 回総会 中国四国医師会連合有床診療所研修会

と き 平成 30 年 1 月 28 日 (日) 13:00 ~ 15:40

ところ 岡山県医師会館 4 階 401 会議室

[報告 : 山口県医師会有床診療所部会長 正木 康史]

1 月 28 日 (日) に岡山市で全国有床診療所連絡協議会中国四国ブロック会の第 9 回総会及び中国四国医師会連合有床診療所研修会が開催され、本県から河村康明 県医師会長、香田和宏 県医師会理事、林田英嗣 部会員、事務局及び正木が出席した。

総会に先立ち、11 時より役員会が開催され、香田理事と正木が出席した。第 9 回総会の運営や第 10 回総会の日程「平成 31 年 1 月 27 日 (日) ホテルグランヴィア岡山で開催」について協議、決定した。その他、各県よりそれぞれの有床診療所協議会・部会の活動状況の報告があり、スプリンクラー問題、診療報酬改定などについての情報交換を行った。

総会には中国四国 9 県より約 50 名が出席した。

挨拶

大谷博正 庶務担当理事の司会で始まり、まず中国四国ブロック会の齋藤義郎 会長が以下の挨拶をされた。

「本会は平成 20 年に広島県の森 先生に立ち上げていただき、今年で 10 年目に入る。有床診療所は多くの課題を抱えている中で、中国四国ブロックは全国有床診療所連絡協議会の中でも頑張っており、副会長 1 人、常任理事を 3 人出している。木村先生 (岡山県) は介護保険担当、正木先生は診療報酬を担当し、私も昨年度より日医有床診療所委員会の委員長を仰せつかっており、先般、平成 28 ~ 29 年度の答申書を日医会長に提出したところである。各県の有床診療所連絡協議会が弱体化していることもあり、全国有床診療所連絡協議会中国四国ブロック会の開催を、中国

四国医師会連合と連携すべく、今回は中国四国医師会連合有床診療所研修会との同時開催となっている。また、3 月 9 日には日医で都道府県医師会有床診療所担当理事連絡協議会が開催される予定であり、今後、有床診療所連絡協議会が各県医師会と連携して運営され、活動が活発化されるようになればと考える。今年の 7 月には山口県医師会の引受で全国有床診療所連絡協議会総会が岡山市で開催されるので、中国四国ブロック会としても全面的に協力・応援したい。」

議事

1. 平成 28 年度事業報告の件

平成 28 年度の総会が平成 29 年 1 月 22 日 (日) に岡山県医師会館で開催され、二宮忠矢 岡山県備前保健所所長の基調講演及び中川俊男 日医副会長の特別講演、意見交換会「2025 年、その先の有床診療所」や鹿子生健一 全国有床診療所連絡協議会会長の特別発言などの報告があった。

2. 平成 28 年度収支決算報告の件

大谷庶務担当理事より決算報告、岡田監事より監査報告があり、承認された。

3. 役員改選の件

平成 30 年度より日医、各県の役員改選と合わせるため、今の役員任期 (3 月末まで) を本年 6 月末まで延長し、各県の役員改選が終わった後、各県より中国四国ブロックの役員を推薦していただき、本年 7 月の全国有床診療所連絡協議会総会山口大会の期間中に臨時総会を開催し、次期役員を決定することとなった。

基調講演**調査から見た有床診療所の現状と課題～地域における有床診療所への期待～**

日本医師会総合政策研究機構研究部専門部長

江口 成美

「医療を取り巻く環境、わが国の医療のターニングポイント」として、高齢化&人口減少社会、国家財政の危機—社会保障費の増大、革新技術(高度医療、ICTの活用、ビッグデータ)、そして受療行動の変化と適正な医療提供について、「有床診療所の診療報酬改定—経緯と今後—現状」として、昨年 11 月の中医協で厚労省より提唱された有床診療所のモデル分析(主に地域医療を担う地域包括ケアモデルと主に専門医療を担う専門医療提供モデル)についてと今回の改定で評価された有床診療所の地域包括ケアモデルでの運用の支援について解説された。「診療の実態と課題」では、有床診療所の減少と地域性、経営の実態(入院部門の赤字、経営の悪化傾向など)、介護事業への関心、入院患者の満足度の高さや地域包括ケアシステムの中での役割と課題などについて、「今後の方策」としては、地域包括ケアの中での体制整備(かかりつけ医機能の強化、介護サービスへの参入、人員確保を地域で対応、在宅医療の後方支援)、強固な経営基盤の整備(病診連携の推進—在宅復帰加算、ケアが必要な長期入院者の受入れ体制)、そして有床診療所の継続問題(継承と新設の検討、若手医師への働きかけ)などについて、最後に新たな財政支援制度(地域医療介護総合確保基金)事業の提案例なども提示されての講演であった。

特別講演**平成 30 年度診療報酬・介護報酬改定の最新情報と地域包括ケアシステムにおける有床診療所の役割**

日本医師会常任理事 鈴木 邦彦

「地域医療構想と中小病院・有床診療所の役割」について、2014 年の医療法改正による地域医療構想の導入とその流れ、在宅医療の新たなサービス必要量の考え方、2025 年に向けた在宅医療の体制構築、療養病床の基準病床数算定式との関係、

療養病床から介護医療院等へ転換する見込み量の把握、病床規模別に見た病院の方向性、病院機能に着目した診療報酬上の評価のあり方や地域密着型中小病院・有床診療所の役割などの解説があり、平成 29 年 3 月の医療法施行規則の改正(届出による診療所病床設置の要件緩和)により、新規有床診療所の開設が容易になる旨の説明があった。

「平成 30 年度診療報酬・介護報酬同時改定」について、社会保障審議会から出た平成 30 年度診療報酬改定の基本方針(骨子案の概要)、平成 30 年度介護報酬改定に向けた基本的な視点(概要)、平成 30 年度診療報酬改定・介護報酬改定の改定率(診療報酬本体 プラス 0.55%、介護報酬 プラス 0.54%)、有床診療所については、中医協で有床診療所のモデル分析として“主に地域医療を担う有床診療所(地域包括ケアモデル)”と“主に専門医療を担う有床診療所(専門医療提供モデル)”が提唱されたこと、医療と介護の連携については、医療と介護の連携に係るこれまでの議論の整理内容(関係者間の連携、看取り、訪問看護・リハビリ)、介護医療院については、その人員・施設基準、基本報酬や医療機関からの転換など、そして有床診療所が提供する短期入所療養介護についての解説があった。

「かかりつけ医と地域包括ケアシステムの構築」については、日医のかかりつけ医機能研修制度の目的、研修内容、現在の進捗状況などについての解説があった。

意見交換会

正木がコーディネーターとなって、鈴木日医常任理事、江口日医総研研究部専門部長及び鹿子生全国有床診療所連絡協議会会長にも参加いただき、意見交換会を開催した。

テーマは、間近に迫っている診療報酬・介護報酬同時改定とスプリンクラー問題及び認定医療法人制度とし、まずは診療報酬改定に対する全国有床診療所連絡協議会の活動、取組みについて正木より説明した。昨年度は自民党の「有床診療所の活性化を目指す議員連盟」を 3 回開催し、厚労省 3 局(医政局、保険局、老健局)に対し議連を通じて意見交換・要望を行ったこと、昨年

5月より厚労省を数回にわたり訪問し、懇談・要望を行ったこと、本年1月12日に出された「診療報酬改定の現時点での骨子」に対するパブリックコメントを提出したことなどを報告した。昨年11月の中医協で、厚労省より今後の有床診療所のモデル分析として提唱された「主に地域医療を担う有床診療所—地域包括ケアモデル」と「主に専門医療を担う有床診療所—専門医療提供モデル」については、考え方は総論賛成であるが、人材の確保が困難なことなどもあり「地域包括ケアモデル」への新たな参入は、あくまでも選択肢の一つであり、「専門医療提供モデル」の充実も必要であるとの主張を行っている旨説明した。そして、1月24日（水）に診療報酬改定の個別改定項目（短冊）が中医協で検討されたが、「地域包括ケアシステム構築のための取組の強化」の中で、「有床診療所の地域包括ケアモデルでの運用の支援」が取り上げられ、事前の我々の要望を反映していただくことができ、施設基準・算定要件がかなり緩和されたことを報告し、意見交換に移った。

会場より、入院基本料に逓減制のない地域包括ケア病棟の有床診療所版の設置、維持期リハの存続問題、有床診療所と特別養護老人ホームの医師併任不可の問題等についての意見・要望があり、鈴木日医常任理事や鹿子生全国有床診療所連絡協議会会長のコメントをいただいた。

特別発言

全国有床診療所連絡協議会会長 鹿子生 健一

最近の全国有床診療所連絡協議会の活動等について、以下のような発言があった。

「全国有床診療所連絡協議会の各ブロックの中で、中国四国ブロックは非常に活発な活動をされており、また、齋藤先生（徳島県）をはじめ多くの方に全国協議会で副会長や常任理事の役割を担ってもらっており感謝申し上げます。さて、今回の診療報酬改定では、地域包括ケアシステム構築のための取組の強化で、有床診療所の地域包括ケアモデルでの運用支援が評価されているが、当初の算定要件では限られた有床診療所でしか加算が算定できない要件であったため、全国協議会としての働きかけを積極的に行い、なんとか間口の広い施設基準、算定要件にすることができた。これらの活動は鈴木日医常任理事をはじめ日医役員の方々とも連絡を取り、ご協力いただきながら活動している。この3月には日医で都道府県医師会有床診療所担当理事連絡協議会が開催されることになっているが、全国協議会の組織強化が急務であり、会員の皆様のご支援をお願いしたい。」

かなえない
未来がある。




応援してください。
やまぎんも、私も。

石川 佳純



山口銀行
YAMAGUCHI BANK